

EC-METI/NEDO 事務レベル会合

議長サマリー（和訳）

2009年10月15日～16日、イタリア・ナポリ

<背景>

2008年6月、経済産業省（METI）の甘利経済産業大臣（当時）と欧州委員会（EC）のポトチュニック研究担当委員が、日 EU 間でのエネルギー分野の研究開発協力を推進することに合意した。これに基づき、2009年3月に「エネルギー技術開発に関する日 EU 戦略ワークショップ」が東京で開催された。同ワークショップでは、日本及び EC の双方は太陽光発電、蓄電、二酸化炭素回収・貯留（CCS）を協力分野とし、主要な新興国・途上国との協力の可能性についても議論が行われた。この日 EU 間の協力の進捗状況を把握するため、2009年10月15日～16日に EC-METI/NEDO 事務レベル会合がナポリで開催された。

<共同の取り組み>

今回の会合で日本及び EC の双方は、共同の取り組みとして以下の内容について合意した。

太陽光発電：2010年に立ち上げ予定のプロジェクトの共同公募や研究者の交流を実施するためのスキームの調整を開始する。また、ラウンドロビン（サンプルの相互評価）を実施するための協力スキームの検討を行う。

蓄電：日本及び EC の双方は、2010年前半を目途に、安全性にかかる試験・評価手法に関する専門家会合を共同で開催し、情報交換を行う。また、競争領域前の次世代電池や蓄電の系統連系についても、協力の可能性を模索する。さらに、研究者交流の可能性についても検討する。

CCS：短期的協力として、日本及び EC の双方はモデリングやパブリックパーセプション（公衆の意識）、貯留の安全性などの非競争領域の課題への取り組みを中心とした協力を加速するため、2010年前半にワークショップの開催を検討する。長期的協力としては、日本及び EC の双方は競争領域前の分野の研究・技術開発協力の可能性を検討する。研究者交流の可能性についても検討する。

日本及び EC の双方は、2009年2月の「日本と欧州共同体の科学技術協力に関する協定」の仮調印を歓迎し、エネルギー分野での長期的、戦略的なパートナーとしての関係構築を

目指して協力することを合意した。同協定の下、日本と EC の実務レベルでの協力の発展及び実践を推進するための実施協定（Administrative Arrangement）を今後策定する。また、日本及び EC の双方は、科学技術協力協定の下で開催される第一回合同委員会の開催に合わせて実施協定の署名を行うことを目指し、それに向けた準備を進めることで合意した。

なお、協力の進捗状況の確認や更なる取り組みのため、今後も EC-METI/NEDO 事務レベル会合を定期的で開催する。次回の会合は、第 1 回合同委員会の際に予定している。

<欧州エネルギー研究アライアンス（EERA）>

日本及び EC の双方は、欧州エネルギー研究アライアンス（EERA）と日本の研究機関との協力についても検討することで合意した。

EC-METI/NEDO-US DOE 事務レベル会合

議長サマリー（和訳）

2009年10月16日、イタリア・ナポリ

METINEDO は、欧州委員会（EC）及び米国エネルギー省（DOE）と、クリーンエネルギー技術における共通の関心分野に関する三極間協力の可能性について協議を行った。同協議では、現在計画中または実施中の二極間協力を基に、三極間協力の取り組みとして、二酸化炭素回収・貯留（CCS）、スマートグリッド、太陽光発電を主な対象分野とすることが提案された。三極は、協力が考えられる具体的なプロジェクトや活動について検討を促進するため、それぞれの分野の連絡窓口を共有することが合意された。また、共通関心分野に関する研究開発の並列的募集についてもその可能性を模索することとした。次回の会合では、三極間協力に向けた具体案を議論することで合意した。最後に、三極は新興国や途上国とのエネルギー技術協力の重要性について協議し、随時三極間で情報交換を行うことが有益であるとの意見で一致した。